



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第13号 2021年3月発行



このプロジェクトは5年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、ビエンチャン市、ルアンパバーン県、サイヤブリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. OA 市場調査の結果

ビエンチャン市の ITECC OA 市場（毎週水曜と土曜に開設）にて、2021年2月3日・6日・10日の3日間、消費動向の把握と OA 市場の改善のために、ビエンチャン市農林局、サイセター郡農林事務所及びビエンチャン市 OA グループ農民委員会によって、計143名に対しインタビュー形式で調査を行いました。その結果、利用者は週2回（60%）又は週1回（37%）が主でした。OA 市場を利用する理由（複数回答）としては、市場の利便性（79%）、有機農産物（71%）、鮮度（64%）、駐車場有り（58%）が5割以上を占めました。販売される野菜・果物の種類の多さと安全性についても、3割以上の消費者が理由に挙げました。また、価格については適正（59%）が大半を占め、前回（2018年8-10月：雨季）の調査から10ポイント増加しました。雨季に比べこの時期（乾季）は、価格が相対的に低くなり単純な比較はできませんが、有機農産物に対する認識・評価が、この2年余りで少しずつ高まっているように見受けられます。一方、OA 市場の改善については、値札の使用（24%）、トイレ（19%）やコーヒーコーナー（15%）の設置、駐車場



ビエンチャン市農林局職員による調査の様子



（写真）ビエンチャン市農林局職員による調査の様子

の整備（14%）への要望が挙げられました。今後はこれらの結果も踏まえ、プロジェクト関係者と共に一歩ずつ『より良い OA 市場』の改善に向けた取り組みを進めてゆきます。

2. 「グリーンハウス（GH）導入農家の選定調査」、及び「有機農業（OA）グループの現状調査」を実施

3月3日（水）から12日（金）にかけてプロジェクトサイトであるシェンクワン県・サイヤブリ県・ルアンパバーン県の3県で、カウンターパート機関である農業局クリーン農業基準センター（CASC）と共に「グリーンハウス（GH）導入農家の選定調査」と「有機農業グループの現状調査」を実施しました。



GHの選定基準を説明するCASC職員

本プロジェクトでは昨年に引き続き、3県1首都（シェンクワン県、サイヤブリ県、ルアンパバーン県、ビエンチャン市）で計25棟のグリーンハウス資材を一部助成する予定です。雨季が始まる6月初

旬までにグリーンハウスの設置を終えることで、雨季の期間中も栽培可能な品目が増えるほか、土壌中の過湿を防ぎ疫病などの病気の発生を減少させることで、増産並びに増収効果が期待されます。

自己資金の投入を上回る増産・増収効果が得られることを体感してもらい、今後は全額自己資金による設置並びに更なる設置棟数の増加といった波及効果を目的に実施しています。

生産課題を解決することで、少しでも生産農家の所得向上に直結するような取り組みをこれからもカウンターパート機関と共に実施して参ります。



OA グループの現状について調査を行う CASC 職員

3. ビエンチャン市有機農産物に関する PR ビデオ

プロジェクトでは、ビエンチャン市の有機農産物を推進するための PR ビデオを作成しました。2 分間の短いビデオですが、ビエンチャン市内の OA 市場と有機農家についてコンパクトに紹介しています。本ビデオはビエンチャン市内のパトゥーサイ公園の電子掲示板に2月上旬より3か月間掲示される予定です。



パトゥーサイ公園の電子掲示板で流れる PR ビデオ

また同ビデオは2月23(火)~27日(土)に開催された Lao Food Festival のビエンチャン市有機農家グループのブースでも公開されました。JICA ラオス事務所 (<https://fb.watch/4ixGhrZJfM/>) や Organic Home の Facebook (<https://fb.watch/4ixLqr8QCU/>) でも閲覧できますので是非確認してみてください。

OA 現場からの声

このコーナーでは、対象県で有機農業推進に尽力しているキーパーソンに焦点を当て、発信しています。今号では OA 市場で有機農産物を加工した飲料水を販売しているビエンチャン市シーコッタボン郡ノーダー村有機農業グループ長メーラーニー氏を取り上げます。



メーラーニー・シーサム
バット氏
(ノーダー村有機農業グループ長)

2021年3月17日(水)に ITECC OA 市場で有機農産物の加工品を販売しているメーラーニー氏を訪問しました。トウモロコシ、かぼちゃ、里芋等8種類の有機農産物を加工した飲料水を販売しています。トウモロコシ・ジュースが一番人気のようです。「15年ほど前に、タイのコンケンで食品加工を学ぶ3週間のコースに参加しました。タイ人も含めて合計23人がコースに参加し、ラオス人は3名いました」。

現在ビエンチャン市の OA 農家 18 名が個別に食品加工に取り組んでいます。「自分自身並びに家族にも飲んでもらいたいので有機農産物を使用した飲料水加工に取り組みました。有機農産物を使用すると味が確かです」。食品加工あるいはポストハーベストに関する研修に数多く参加した経験もあり、OA 市場で他の農家に対して包装等のアドバイスを適時行っています。

